

市政ウォッチング・市民会議 傍聴報告 です。

21年2月2日(月) 午後3時～3時29分

第2回(20年度)市・特別職報酬等審議会

傍聴者は1名。5階 会議室にて

15:00

始めに、行政(人事課長)より、

「春日井市の財政の現状と健全化への取り組み」(A4一枚の資料)でもって、

1. 市の財政の現状と課題
2. 春日井市中期財政計画
3. 行政改革による職員数削減
4. 議員定数の削減と効果
5. 人件費の抑制
6. 特別職の給料と議員報酬改定の経過  
等の説明があった。

15:10 審議

会長 → 今の説明を踏まえ、どうするか、ご発言を

委員 → 派遣など、民間では厳しい。市長、副市長等引き下げの声もあるが、議員定数の減は費用の減にもなるし、職員の削減もあるので、据え置きでいいのではないか。

委員 → 議員は9年度から据え置き、市長、副市長等は下がっている。状況が良くなれば引き上げということで付記すればいいのでは。

委員 → 付記については、上げる場合も下げる場合もあると両方記すべきだ。市からは、あれこれ、補助金など申請すると、春日井市は大阪より債務は大きいから大変だ、などと云われ、出来ないよ、と云われる。だから、今日のような説明を日頃もやってほしい。

会長 → 先回、そういう話しも出たので、今回説明した。

委員 → 質問だが、中期財政計画には、21年度の法人市民税の減(10億～14億と言われている)や、法人事業税の増などは入っていないと思うがどうなのか。

会長 → この3/31日に、30万人を超えれば事業税が入る予定だ。商工会議所でも、現下の経済情勢からお願いしたが、法律で決まっているとしてダメだったことであった。

部長 → 事業税は、来年度以降は全額、今年は10月からだから半分くらいか。

行政 → 今年は半分以下を見込む。13億～14億を考えている。

委員 → 確認だが、日本国籍の住民(登録)数でいいか。

行政 → そうである。

委員 → 先の委員からも出たが、初めて聞いたとか、新聞は見るが、市の広報は見にくい。その違い、何とか、もっと、分かりやすくできないか。

委員 → 健康福祉課へ行くと、財政が厳しいと言うばかり。職員の教育も。

委員 → 税収減になった場合、今後、どういう影響が出るのか。

行政 → 臨機応変に対処していく。

会長 → 皆さんのご意見は、「据え置き」が多い。市長、副市長等、議員も全て「据え置き」でいいか。

委員 → 異議なし。

会長 → 去年は、引き上げの方向も出ていたが、状況が変われば、、、。

部長 → 先の委員の発言にもあったように、両方(引き上げ、引き下げ)を書く(答申として)こととしたいが、よろしいか。

委員 → 異議なし。

会長 → 先回の議事録の件、特に意見なかったので、本日署名してもらいます。今日の議事録については、後日委員へ送付させていただき、異議なければ署名して頂くこととしたい。

15:29 終了。

### 市民の視点からの コメント

○ 市民の視点、市民生活の目線からの議論は「なきに等しかった」と言っても過言ではない。派遣切りや雇い止め等、さらには、正社員の解雇まで始まろうとしている、現下の市民生活の危機的状況を全く理解していない、としか言いようがない。誠に残念である。

○ ある委員がいみじくも、「春日井市にお世話になっている立場」からは、「引き下げ」などと言う発言は困難、との趣旨の発言をしたが(第1回)、確かに、猫の首に鈴、は大変だ。そこでも出たが、上に立つ者は、「矜持を持って」自ら率先して行動し、市民の苦しみを共にしてこそ、その役割を果たしている、と言えるのではないか。

「据え置き」のお墨付きを得たわけだが、今後更に、しかも、急速に不況の度合いは深くなるだろう。

市民として、今後の対処をしっかりと見届けたい。